

2021年6月17日

日本船主協会 海事人材部

**率直な意見交換を通じて関係を強化
～海技教育機構と内航海運事業者の情報交換会を開催～**

日本船主協会では2008年7月より人材確保タスクフォース(TF)を結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しており、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて具体的な活動を進めています。

この度、2021年6月7日(月)に内航WGが中心となって、海技教育機構本部および傘下の海上技術学校、海上技術短期大学校、及び海技大学校の教員と、当協会会員の内航海運事業者がお互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を開催しました。

6月7日に開催された当情報交換会は、今年で12回目となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、初のオンライン形式での開催となりました。当情報交換会には、海技教育機構本部、館山・口之津・唐津の海上技術学校、小樽・宮古・清水・波方の海上技術短期大学校、海技大学校8校の教員と、内航船社14社から22名を含む総勢37名が参加しました。

初めに、海技教育機構本部より入試状況や就職状況等の機構の概要説明と、内航船社より各社の概要紹介が行われました。

次に、海技教育機構側から提起された「新型コロナウイルスによる影響」、「学校と船社の人材育成」について意見交換が行われました。また、学生の教育方法や取り組みなどについても、内航船社と海技教育機構から様々な意見が出されました。加えて、コロナ禍における教育現場や、会社訪問・採用面接等の体制に関する情報交換も行われました。

活発な意見交換が行われ、職業・企業を選択する上でのミスマッチを防ぐためにも双方間で情報交換・共有することが非常に重要であることが再認識された機会となりました。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後も優秀な日本人海技者確保に向け、関連機関と協力して幅広い活動を継続していくこととしています。